

月刊反トマホーク通信

No. 18
87.4.20
定価 100円

東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095



☆各地の行動計画は最後のページに

一九八五年六月十五～十七日、一九八六年六月二十七～二十九日に続く三回目です。アメリカの新しい海洋戦略によってひき起こされつつあるさまざまな軍事的エスカレーションに対して、「海を戦争のために使うな」「海洋戦略にもっと人々の関心を！」と、世界的な行動の呼びかけが行われてきました。具体的な課題は、それぞれの国にふさわしいものを設定します。「トマホーク配備反対」「アメリカのリビア爆撃に抗議」「ニュージャージー寄港反対」、「ミズーリ母港化反対」、「フィリピンの米軍基地撤去」、「海洋戦略のための通信基地撤去」などなどです。今年、NAN（北大西洋ネットワーク）のスコットランドCNDが連絡センターとなり、大西洋、太平洋、地中海、インド洋でのとり組みが計画されています。この日、世界の海は民衆の反戦・反核の声を結びます。

海の軍備撤廃をめざす国際ウィークエンド

5.29→31

トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1日 2000円
個人 1日 1000円

●参加会員（月間会費）

団体 1日 1000円
個人 1日 500円

●通信会員

年間 2000円

あなたも仲間にな！

核をめぐって、この国と米国の支配者たちのあいだで交わされてきた「密約」の存在をだれももう否定できない。

四月十二日、共産党が暴露した一九六六年二月二四日付けの米國務省から在日米大使館への公電は、「一九六〇年の日米安保条約の下での核兵器持込み（イントロダクション）に関する日本と米國との秘密取決め」の存在をはっきりみとめている。そこでは「持込み」と一時通過」（トランジット）は区別され、後者については日米安保条約に基づく事前協議の対象からは除外されていることは疑う余地がない。

日本政府は七四年のラロック退役海軍少将の議会証言、八一年のライシヤワー元駐日大使の発言を「一私人の発言」と退けてきたがその論法が何時まで通用するかと考えているのだろうか。

統一地方選の最中であつたにもかかわらず（いや、そうであるが故に）言うべきだろうか）「革新政党」を含めて人々の反応は小さかつた。そして、そのことを見透かしていた

かのように「ロングビーチ」と「レインジヤ
ー」は佐世保にはいった。

「核抑止」の重要な柱に、「プレゼンスの誇示」――ここに核があるぞと宣言すること――

がある以上、米国が一貫して求めているのは、核の存在を明かすか否かを、戦略上の利害からのみ判断できる「フリーハンド」の確保である。だから太平洋における最大の同盟国（日本）の「核持込みに対するあいまいな態度」（国務省公電）は、すぐにでも切取りたい目の上のタンコブだ。

もういい加減に核持ち込みを正面きつて認めたらどうだという圧力は、今後も強まりこそすれ、弱まることはないだろう。

ところが、日本政府はだからといって、す

ぐさま、はいわかりましたとは言えない。
「事前協議」の無いことをただひとつの拠り所とした「非核の証明」の仮面をかながらす
てることが出来ない。出来なくさせているの

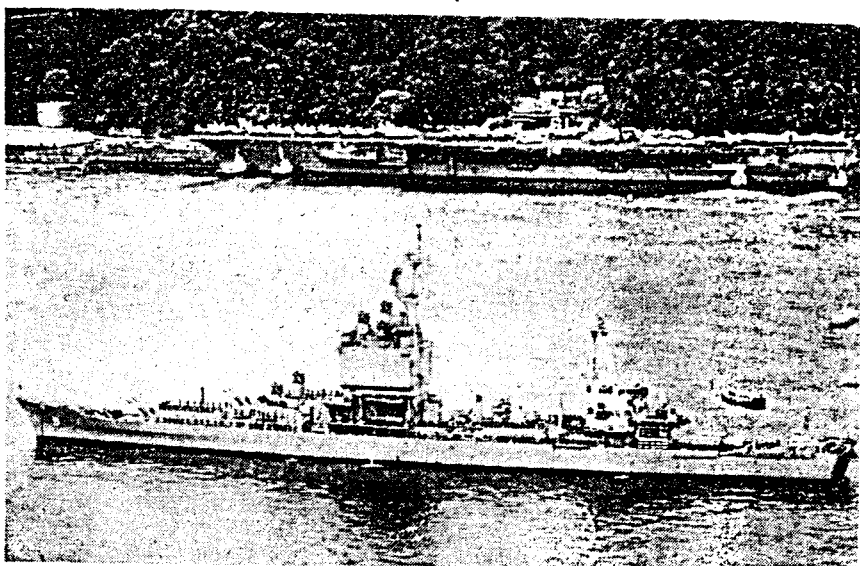
は間違ひなく人々の意思。そして、人々の意思によつて支えられた自治体、なかでも艦船を受入れる自治体の姿勢と動向であることを私たちは知つてきた。

「自治体」にしつらえられた「非核の土俵」は、おそらく私たちの想像する以上に頼もしく支配者たちの目論みの前に立ちはだかつてゐる。そして、その「真価」がいよいよ正面から問われているのが今なのではないか。

「非核コード」(核の有無についての客観的自主的判断基準)を持った自治体が、それをもとに核艦船を拒否する。これを実現できるかどうかが状況をこじあけるカギ。そしてこのカギを握っているのは人々―あなたであり、わたし。

「非核」のチャンスはある。私たちの暮らしのあしもとに確かに、ある。（田巻一彦）

佐世保に ロングビーチ が入港! (4.10)



佐世保港に入港した米巡洋艦ロングビーチ（手前）と米空母レンジ
ヤー＝10日午前9時、共同通信ヘリから＝

米空母部隊が寄港

佐世保、核疑惑の口号も

【佐世保】米海軍第七艦隊第一空母戦闘部隊（CBG）の中核艦、通常型空母レキシヤ（LCS-65）のW・デービス艦長が約五千人乗組と、原子力巡洋艦ロンダビーチ（DDG-955）のM・J・ウィニガー艦長が千九百人乗組とが十日午前、フリゲート艦一隻を伴って相次ぎ佐世保に寄港。灰色の巨大な港内に浮かべた。

【17面に関連記事】

レ号は午前七時前、港口の向後橋を通過、艦上では乗組員全員による慣例の「喜ばれ札」を行ない、同八時四十分、海自音楽隊の出迎え演奏の中、赤崎岸壁に接岸した。ロ号は午前七時五十分前、向後橋を通過、同じく「喜ばれ札」をしながら、同九時前、港奥部の一号ブイに保留した。

レ号艦内では早速、佐世保日米協会など関係者約百人が出席して歓迎レセプション。米海軍佐世保基地のバーク・ハースト司令官や同協会の常永雄幸会長が歓迎の言葉を述べ、佐世保市などが戦闘部隊司令官のチャールズ・Ｒ・マクグレイル少将らに花束を贈った。あいさつに立った同少将やデービス艦長は「佐世保市民の温かい歓迎に感謝している。これを機に日米の友好関係が一層花開くことを期待している」とお礼を述べた。

今回の寄港はレ号が十七年ぶり、ロ号は初めて。二月から今月九日まで韓国沖合で行われた米韓合同演習（チームス・ヒット）⁸⁷に中核艦として参加していただけに、二隻とも随所でペンキがはけ赤サビが浮くなど長く厳しい訓練を物乞った。また、レ号艦上に物を折りたたんだ数十機上の艦載機が並び、威容を誇示、接岸直前まで対潜ヘリコプターが海面すれすれまで降りてホバーリング、素敵行動を展開していた。

初寄港のロ号は昨年八月の戦艦「ニュージャージー」（四五、〇〇〇トン）、駆逐艦「リル」（五、七七〇トン）に続く核トマホーク搭載可能な、核隠惑水上

艦、革新団体の危機感を与らせている。

佐世保海上保安部は巡視船艇十二隻で警戒に当たったが、デモ船は一隻だけで混乱はなかった。

三菱は四日間滞在。十四日には他の随伴艦三菱が入港するものとみられている。

佐世保滞留在4日間

【佐世保】空母リニャー、原子力巡洋艦ロングビーチを中核とする米海軍第一空母戦隊部隊のチャールズ・R・マククレール司令官は十日午後、佐世保市役所に機務長を表敬訪問した際「今回の滞在は数日間延びて四日間となった」と述べ、公式に四日間滞在を認めた。

各地から

●四月十日、原子力ミサイル巡洋艦ロングビーチが空母レインジャー機動部隊の一員として佐世保に入港した。昨年八月横須賀以来の日本寄港、佐世保には初めて。繰返すまでもない。核トマホーク搭載確実艦だ。当日市内で開かれた統一地方選に向けた決起集会は入港抗議集会ともなった。佐世保市長は外務省に「核兵器の持ち込みが絶対に無いよう」申入れた。「反トマホーク全国運動」は同市長に入港拒否の要請文を送り、各地からもハガキや電報が寄せられた。ちなみに、入港のニュース、首都圏ではついに一度も報道されなかった。

情報提供：
佐世保軍問研

(4ペーじから)

と小さい頃から教えられてきた抑圧感からの解放だとしたら、人間は本来的に嘘つきなのかと思う。もっとも人間に対しての嘘と国家権力とか安保とかに対しての嘘とは違うだろう。「やっと今になって一坪地主になった実感が湧いてきた」 防衛施設局員と対した後の感想である。多くの一坪地主が喜びや誇りをもって施設局員の背後にいる国家や安保と対決している。自らの生活の場に迎え撃って敵を翻弄してやるという余裕をもって。まるでゲリラのように。一坪反戦地主は自ら非国民宣言を国家に対してする者達である、とは呼びかけ人の言葉だった。しかし、斗いが最終局面を迎えてみると、どうも一坪反戦地主とはもつとすごい存在じゃないかと思ひ始めた。それを表現するとすればゲリラの頭に反戦とか反基地とか反安保を被せるのがいい。沖縄に米軍基地がある限り、私達の斗いは止まない。それどころか私達の存在そのものが米軍基地の長期安定使用という安保の要請を脅かし続けているし、その脅威は、今後、一坪地主運動の無限の拡がりの中で益々増大していくのである。

今回の十年間強制使用は、その意味では単なる第一ラウンドとも言える。私達にとって初めての斗いの第一ラウンド終了間際に、

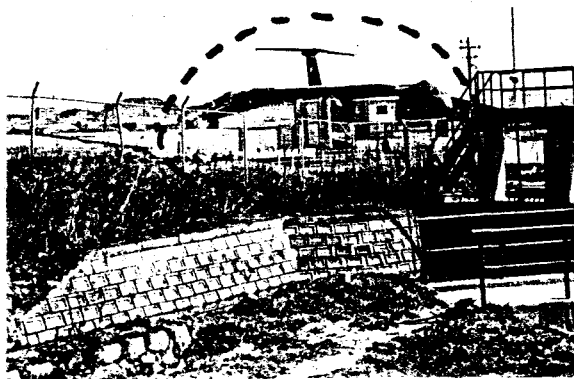
敵の弱点がはっきり見えたのである。この終了間際、敵が焦って出てくる所へ、その弱点を狙ってカウンターの撃ちこめば第一ラウンドで勝つ可能性もあると断言できる。かつて、「法的空白の四日間」という無法状態が生み出されたことがある。一九七七年の五月十四日、沖縄公用地法の期限切れが四日間成立しなかったのである。それから十年後の今日、国会における斗いではなく、私達

各地から

韓国で米軍の基地を閉鎖しよう...

四月四日、チームスピリット八七のむこうをはって、「ピーススピリット八七」の集会を開いた。花見と重なったりして、参加者は三十名ちょっとだったが、岩国、呉で反基地の闘いをつづけている岩国市職労平和問題研究会の田村さん、トマホークの配備を許さない呉市民の会の湯浅さんから、チームスピリットと岩国基地、呉の米軍弾薬庫の動きなどの報告をうけた。その後、在日韓国青年同盟広島県本部の朴さんから韓国における民主化闘争についての報告。主催は全斗煥来日、天皇との会見に反対することをきっかけにできた「日韓新時代を撃つ！」広島実行委員会。朴鐘哲君の拷問死への抗議行動、民主改憲闘

1月13日に着陸に失敗して右翼を折り、火災を起こしたC141スター・リフター。いまだに滑走路の端に放置されている。(岩国)



広島

一人一人の創意工夫をこらした斗い如何によってそれが可能なのだ。明日(四月十四日)からは、県収用委員会の裁決書を受取らなかった一坪地主の所へ施設局員がやってくる。向こう一カ月の攻防戦の始まりだ。やさしい顔をした安保の実態を暴き出し、安保に風穴をあけてやろう。明日、我が家にも安保がやってくる。

争と高揚する韓国民衆の闘いにどう連帯していくのかを問ひなおし、盛り上がり欠けた日韓連帯運動の現実を直視しながら、身近に存在する基地の問題と組み合わせる考え、さらにヒロシマを問ひ直してこうとした集会だった。

奇しくも、集会前日にチームスピリットに参加し帰投中のF4Sファントム(岩国基地所屬)が広島県の中国山地にスパロームサイルを落とすという事故を起した。この事件は

各地から

五月には依佐美基地で

愛知

核も安保もいらない! あいち反戦の会は、今年も米海軍依佐美基地を主要なターゲットとして、「依佐美基地を包囲する運動陣形をどうつくりだすか?」「地元の農民・住民と如何に結びあえるか?」等の具体的テーマと目標を設定して活動をするめている。

「八七年の反戦・反核を語ろう! 二・二一集会」は、そうした活動をすすめるにあたって、反基地運動の具体的経験を学ぼう、という問題意識をもって行われた。その意味では、横須賀の新倉さんの集会での話―横須賀での反戦・反核運動の経験―は、貴重なものであった。

チームスピリットが日本をぬきにしては成り立たない演習であり、日本が米核戦略体制に組みこまれていく現実を再認識させた。この集会を一つのステップとして、韓国―岩国―呉―広島という問題の視点をさらに発展させ、運動を拡げていくよう頑張りたい。

「日韓新時代を撃つ!」広島実行委員会
事務局 林 修二

今、あいち反戦の会は、「なくせ!おいだせ! 依佐美基地 五・三一集会」を海の軍備撤廃のための国際同時行動の一環として準備している。そして、この集会に向けて、冒頭に述べたテーマへの回答を少しでも出していくために、基地周辺一キロ以内全戸ビラ入

れ、地域の諸グループへの呼びかけ等を計画している。この集会には、京都のトマ連の仲間も参加することになっている。

上瀬谷のウドの会、横須賀の市民グループのとりくみに励まされながら、五・三一行動を成功させたいと願うものである。共にがんばりましょう。



上瀬谷→横須賀ピースウォーク(5.29~31)
のチラシから 〈上瀬谷基地はいらないウドの会〉

今、被爆地長崎の年々

機関誌

「季刊ピースバス」の発行によせて

舟越 耿一

機関誌発行の目的

水仙や梅に沈み花、香気の確かな春の息吹を感じさせてくれます。

さてこのたび「ピースバス長崎」は機関誌を「季刊」で発行することになりました。

目的としては、会員の自由な意見表明の場をつくること、月々の定例会に追加できない会員のために定例会の内容を詳しく報告すること、「ピースバス」の考え方をその時々明らかにしていくこと、様々な情報の提供、そしてこれらのことを通じて会員相互の親睦と会の一層の充実発展をはかること等を考えています。

趣旨を御理解のうえ会員の皆さんが積極的に誌面を利用されることを期待しています。

「ピースバス」の原型

今「長崎の平和」を問い直す、という時、私は課題の重さを痛感せずにはおれません。しかし「ピースバス」はまだ走り始めたばかり、これからです。

私は希望としては、自分の生き方としてあるいは生活の流儀として平和に関わりたいと思っています。そうすると平和の問題は、大きな話やきれいな話ではなくて、厳しい現実の話になります。この現実あるいはホッネのところこそ私達の出発点です。そして大胆に「平和都市長崎」か「兵器生産都市長崎」かの選択を提起し迫ります。それが私達の課題だと思っています。

米軍艦の入港問題

この二月一日、突然米の軍艦が長崎に入港してきました。事務局では緊急に集まってどう取組むかを検討しました。その結果、核保有国の艦船だからとか、米の軍艦だからというのではなくて、日本を含めてこの国の軍艦であれ被爆地長崎の港には似合わないのだというところで意見がまとまり、入港反対の意思表示をすることにしました。

将来恒常的に米軍艦の修理点検を三菱の技術で行うこと、それが可能かどうか長崎市民の反応を探ること、そのへんにこの問題の本質があるように思われます。被爆都市長崎も聖域ではなくたってきたことに驚かざるをえません。長崎市民はもう一つの選択を迫られています。

「ピースバス」の目標

私達の平和運動の目標は、被爆地長崎が戦争とは一切関係のない真の平和都市になることです。その最高の機軸所として憲法第九条があることは言うまでもありません。日本人が四〇年前にいったんは誓ったこと、そこに帰るだけのことです。

天気の良い日に、弁当をもって、子どもづれ家族づれで、被爆地長崎の兵器工場を見学し、どうしたらいいか本気になって考えよう。これからです。

公開質問のこと

市長選挙立候補予定者四人に平和問題に関する公開質問を行いました。非核都市宣言、兵器生産、情報公開制度等の問題について立候補予定者の見解をしっかりと確かめておくこと、そして私達の見解をしっかりと伝え、これから先いつも気にかけてもらうこと、そのへんに狙いがありました。

続いて市会議員の立候補予定者五七人にも公開質問を出しました。寄せられてくるであろう回答にどうぞ御期待ください。

海外消息

新展開する軍艦の核事故問題
—もうひとつのチェルノブイリ—

軍艦の核事故にあらたな照明が当てられつつある。それぞれの国で直接的なきっかけはさまざまであるが、日本における核艦船寄港反対運動が参考にするべきことがあがが山ふくまれている。

アメリカ レーガン大統領の六百隻海軍をめぐす大増強計画の中で、海軍は水上艦の母港を分散させる『戦略的母港化計画』を採用した(一九八二年十月)。これは、データント時代に母港を集中させた年代の方針を百八十度転換したものであった。『戦略的母港化計画』は当然、トマホーク艦、とりわけ復役戦艦の母港をどこに定めるかというホットな問題に直面した。中でも、ニューヨーク市のスターテン島への戦艦アイオワ水上打撃団の母港化計画、サンフランシスコ市のハンターズ・ポイントへの戦艦ミズーリ水上打撃団の母港化計画は、人口密集都市近郊で核事故が発生したらどうなるか、という当然の疑問を提出した。海軍の核事故については、一九八三年のD・E・カプランの研究以来、本誌月号(八六年十月)に紹介したP・ヘイズらノ

ーチラス・グループの研究など数件の研究があるが、上記のニューヨークとサンフランシスコのトマホーク艦母港化に関連して詳細な「場所特定分析」が登場した。ニューヨークに関しては、M・カク博士の研究(一九八五年、非核市民連絡会議の「非核自治体ニュース」第四号に抄訳あり)、S・A・サハイダチニの論説(一九八五年、「世界政治」七三二七三三四に訳あり)が行われているが、特に注目すべきはサンフランシスコに関するW・ジャクソン・デイビス博士の定量的な場所特定分析(一九八六年)が登場したことである。

ニュージールランド 現在、ニュージールランド国会で審議中の非核法案に関して、政府が国民から意見を聴取する過程で、海軍の核事故に対する問題提起がなされた。一核兵器反対科学者連合(SANAN)のP・ウィルスが、アメリカの情報公開法で資料を得ながら、核兵器事故および原子力推進艦の安全性について詳しい考察を行なっている。(一九八六年)。

オーストラリア 増加するオーストラリアへのアメリカの軍艦の寄港とニュージールランド政府の核艦船拒否政策の影響を受けて、オーストラリアでは、二・三年の間に軍艦寄港反対運動が急成長している。その中で、寄港反対の論理として核事故問題がクローズアップした。国会での論議も活発である。R・ボルト(ヴィクトリアPND)の上院への申立て(一九八六年)、先に述べたジャクソン・デイビスによるシドニーとフリーマントル(パース近接の港)への定量的場所特定分析の研究(一九八六年)などが行なわれている。

カナダ ナヌース湾にあるカナダ海洋実験試験海域(CFMEER)の米軍使用契約の更新(一九八六年)をめぐる論議と軍艦寄港反対運動の成長の中で港における核事故がクローズアップされた。P・ウィリスによるレビュー(一九八六年)、P・ブラウンとB・ロビンソンによる小冊子(一九八六年)などが出されている。

サンフランシスコ湾のトマホーク ジャクソン・デイビスのサンフランシスコ湾における核事故についての定量的場所特定分析について、やや詳しく紹介しよう。ジャクソン・デイビスは核廃棄物の海洋投

棄に反対する太平洋民衆と一体となって活躍してきた行動的な生物学者であり、その分野の人達に最大限の信頼をえている学者である。日本政府おほかえの専門家たちにとっては誠に厄介な存在でもある。

ジャクソン・デビスは、人口密集都市近辺の港における核事故としていくつかの場合を考察している。

a. 艦搭載の核兵器の火災

b. 原子力推進艦の原子炉事故

c. 使用済み核燃料を積んだ船の火災

サンフランシスコ湾については、戦艦ミズーリを中心とする水上打撃団の母港化計画に關係のあるaとbの定量的分析を行なっている。

a. 核兵器の火災

しばしば、メガトン級の水爆が爆発したら、といったシナリオが語られるが、ここで想定されている事故は極めて平凡なものである。にもかかわらず結果は大へん恐ろしい。

サンフランシスコ湾の予定されている海軍施設に停泊中の戦艦ミズーリに火災が発生し、搭載されているトマホークの核弾頭二基が灰になるとする。そして約十キログラムのプルトニウム二二三(六二三キュリー)が酸化プルトニウムの微粒子の煙となって七時間空中に放出されるとする。放射能の煙は雲状の

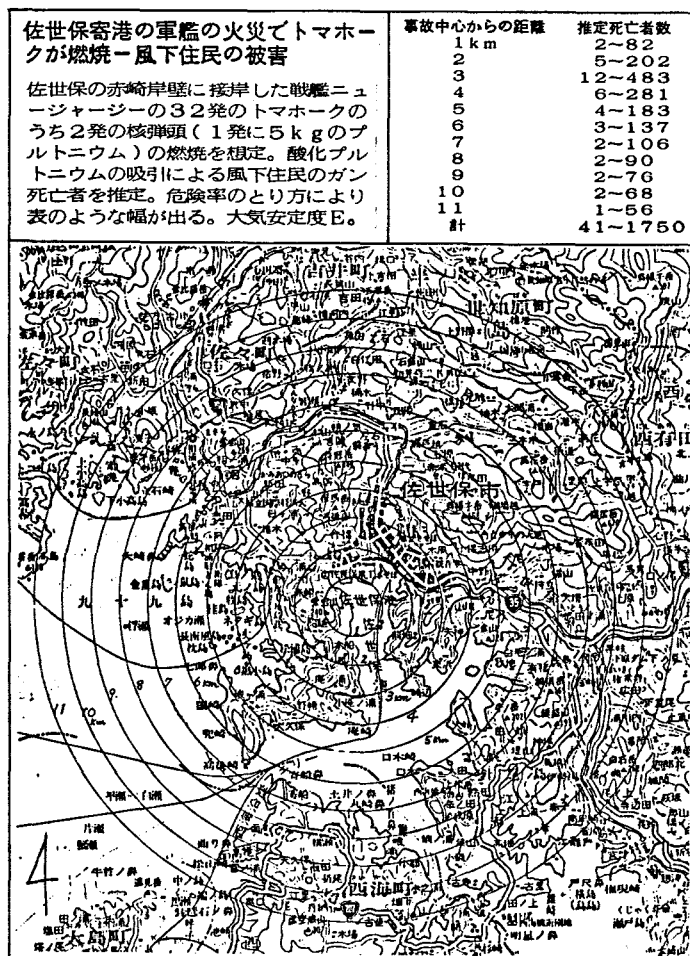
サンフランシスコ湾の原子力艦

b. 原子炉のメルトダウン

原子力推進艦の原子炉事故についても、ジャクソン・デビスは極めて控え目な仮説の下に、国の原子力規制委員会が確立している方法を用いて被害の量的計算を行なった。原子力空母エンタープライズが熱出力二百三十メガワットの原子炉八基を積んでいることから、百メガワット(チェルノブイリの約十分の一)の炉心溶融を仮定し、炉心の放射性物質が放出される割合は、チェルノブイリの場合よりも小さく仮定した。事故の結果のエッセンス部分を要約すると

『事故現場の風下における個々の放射性原子核の大気中濃度は、国の原子力規制委員会

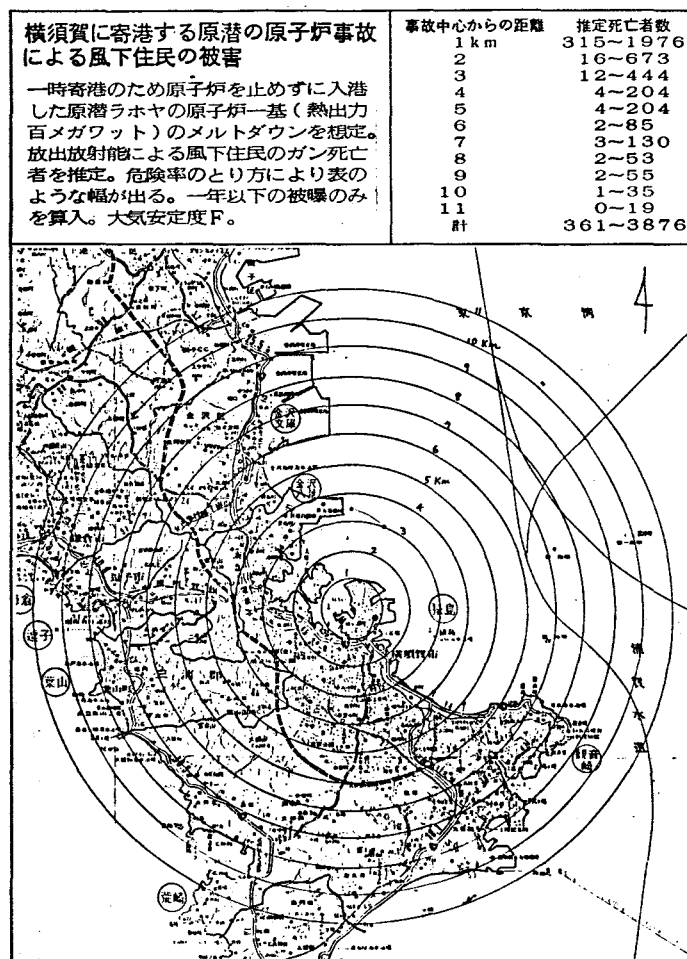
の制限値の二千倍に達する。フォールアウトの量は原子炉の近辺で国の制限値の百万倍に達し、市の事故現場からもっとも遠い地点(十一キロメートル)でも百倍に達する。一略一上記の放射線線量にもとづいてガン死亡者を計算した。短期被曝死亡者(一日)は計算に用いた大気条件と死亡換算率によって五から千六十八になる。中期被曝死亡者(一週間)の地上被曝のみ)はもっとも安定した大気



条件の下で百七十四人から千七百七十八人、長期被曝死亡者(もっとも安定した大気条件の下で二百二十五から二千五十一人となる) (ジャクソン・デビスの計算結果を応用して、横須賀、佐世保に当はめた概略的な図を掲載した。もっと正確な計算が必要である) 〔梅林宏道〕

塊となつて市街を汚染しながら通過してゆく。ジャクソン・デビスはアメリカ原子力規制委員会(NRC)が原子炉の安全性評価のために開発した方法を適用して被害の計算を行なった。結果の要約部分を引用すると次の通りである。

『風下のプルトニウムの雲の濃度は、国の制限値の一百万倍を越すだろう。その放射性の雲の吸引による住民の被曝は国の制限値の一



万倍をこすだろう。そして晩発性のガン犠牲者が発生する。拡散したプルトニウムによって起こされるガン死亡者は気象条件とガン死亡換算率の選び方によって七十人から九百四十三人になる。放射能による急性障害者はこの研究の仮定のもとでは発生しない。

放射能雲が市街を通過するとき、プルトニウムはあらゆるものの表面に付着する。通気装置がある場合は、通気システムの内部いた

会計報告 '86/12/11 ~ '87/3/14	
収入	支出
12/10×5リハ総経金	1.2月分経費
136,922	90,000
会費 176,000	電話(11月) 5,630
内訳	郵送 122,190
維持団体 62,000	印刷 3,000
維持個人 23,000	文具 18,015
参加団体 22,000	会費差 4,300
参加個人 28,000	手数料 2,340
通信費 41,000	その他 21,620
カンパ 56,000	翌月の繰越
	101,827
計4368,922	計4368,922
いつも送金おかげさまで、いつもありがとうございます。 21キアキよりよくお戻しします。 (会計担当 水野)	

コモンデイト5・31
ー87ヨコスカ
国際週末共同行動

[核艦船のとめ方]

青空ティーンと
ピースウォーキング
く上瀬谷 → 横須賀

5/29(金) pm1:30
細谷戸公園集合(相模線「瀬谷駅」北口
から細谷戸第三ゆきバス10分、終点下
車すぐ)

5/30(土)
am10:00
戸塚駅東口出発

5/30(土) pm1:00
JR港南台駅前出発

ここがねらいめ

5/31(日) am10:00
蓮子市役所前出発(京浜急行およびJR
「蓮子駅」からすぐ)

5/31 [日]
●ヨコスカ地区全国
●pm1:30~

発言・出店・実験・展示・その他etc

●ヨコスカ月例一万人デモ●非核コードと反
核ホットライン●核艦船差し止め訴訟●これ
が平和船団だ●もう一つのチェルノブイリ●
芝居/神奈川県VS外務省●呉・佐世保・依
佐美・えびのの仲間から●アジア太平洋から、
などなどを材料にして、さて私たちは今何が
できるかを/青空の下で(たべ物屋も出る)
16:30よりヨコスカ月例デモ、こちらにもぜひ参加を!

連絡先 トマ喰い虫社 03(498)6095
非核市民宣言運動ヨコスカ 0468(25)0157
上瀬谷基地はいらないウドの会 045(363)1111
内-425
(ピース・ウォーキングについての問い合わせはウドの会へ)

月刊反トマホーク通信 No 18

一九八七年四月二〇日発行

*発行
トマホークの配備を許すな全国運動
(東京都渋谷区渋谷二一五十九バル
青山五〇二 トマ喰い虫社
☎〇三(四九八)六〇九五

*編集
反トマホーク通信編集委員会

*定価
100円(通信会員年間2000円)

海の軍備撤廃をめざす国際ワークエント

「なくせ! おい出せ! 依佐美基地」
5.31 集会

PM1:00 ~ 刈谷市勤労会館にて

よびかけ: 「核も安保もいらない! あいさつ弾め会」
TEL 052-762-5118